

機関番号：17401

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2008 ～ 2010

課題番号：20320104

研究課題名（和文） 新出「岩倉具視関係文書」の総合的研究

研究課題名（英文） The Comprehensive Research on the newly discovered material
“Documents related to Tomomi Iwakura”

研究代表者

三澤 純 (MISAWA JUN)

熊本大学・文学部・准教授

研究者番号：80304385

研究成果の概要（和文）：

本科学研究費補助金を利用して、海の見える杜美術館所蔵「岩倉具視関係文書」（以下、本史料群とする）に含まれる約1,700点の史料の目録作成・解読・入力作業を行った。3年間の調査・研究の結果、本史料群が一つの文書群として伝来したこと自体に歴史的意味があることを確認し、併せて、その学術的特徴が、新出史料が数多く含まれる木戸孝允・伊藤博文書翰と、岩倉宛の意見書・報告書類にあることを明らかにすることができた。

研究成果の概要（英文）：The cataloging, the decipherment, and the entry task of the historical materials about 1,700 items included in the “Documents related to Tomomi Iwakura” (this historical materials as follows) owned by Umi-Mori Art Museum were conducted by using this Grants-in-Aid for Scientific Research. We confirmed its historical significance, by the result of the investigation and the research on three years transmission, of the fact this historical materials has been handed down as one document group. Also we could successfully clarify that its academic feature is recognized in the correspondence written by Takayoshi Kido and Hirofumi Ito which include a lot of newly discovered materials, and written opinion and report addressed to Tomomi Iwakura.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	4,600,000	1,380,000	5,980,000
2009年度	2,700,000	810,000	3,510,000
2010年度	2,800,000	840,000	3,640,000
年度			
年度			
総計	10,100,000	3,030,000	13,130,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・日本史

キーワード：岩倉具視、岩倉具視関係文書、明治維新、政治社会史、功臣遺墨

1. 研究開始当初の背景

(1) 今日に至るまで、岩倉具視の手許で集積された、いわゆる「岩倉具視関係文書」は、

国立国会図書館憲政資料室、岩倉公旧蹟保存会对岳文庫、国立国会図書館内閣文庫に分割されて所蔵されていることが、広く知られて

おり、これらは、一部活字化されたものも含めて、全てがマイクロ出版されている。本科研費で、対象とした文書群は、もとはこれらと同じく、岩倉の手許にあったもので、別の事情とルートで売却されたものであり、私たちは、これを「第四の岩倉具視関係文書」と呼ぶことにした。

(2) この「第四の岩倉具視関係文書」を、最終的に購入・所蔵することになったのが、広島県廿日市市にある「海の見える杜美術館」であった。研究代表者の三澤純は 1995 年に（当時は三澤は広島大学大学院文学研究科博士課程後期在学中で、また美術館の名称も「王舎城美術宝物館」であった）、本文書群の目録作成を依頼され、1997 年に仮目録を完成させたが、当時、館側はこれを公開する意志を持っておられず、仮目録も内部資料扱いであった。その後、2005 年に「海の見える杜美術館」としてリニューアルオープンする前後の時期に、館側はこの史料群の活用について検討を始められ、三澤（熊本大学准教授）と研究分担者の藤井譲治（京都大学教授）に相談を持ちかけられた。これを受けて三澤と藤井は話し合いを重ね、2006 年 10 月に館側との協議の場を持った。その結果、熊本大学（三澤）と京都大学（藤井）に拠点を置き、それぞれ分担を決め、解読作業を開始すること、その成果を館側に報告するために年 2 回、研究会を開くこと等を申し合わせた。さらに 2006 年 12 月の研究会では、明治維新政治史研究の第一人者である佐々木克（京都大学名誉教授、その後、奈良大学教授）をメンバーに加え、仮目録に沿って、全史料を確認する作業に入った。

2. 研究の目的

本研究の目的は、海の見える杜美術館所蔵「岩倉具視関係文書」の史料学的研究として極めて明快であり、以下の 5 点にまとめるこ

とができる。なお以下においては、本史料群を [海・岩] と略記する。

- (1) [海・岩] 所収の全史料の解読作業を行う。
- (2) [海・岩] 所収の全史料を、既紹介史料か、未紹介の新出史料かという基準で分類していく作業を行う。
- (3) その上でこれまでに知られている三つの「岩倉具視関係文書」との比較検討をする。
- (4) 上記の研究成果を十分に盛り込んだ本目録を刊行する。本目録には、研究メンバーが執筆する解題論文を収録する。
- (5) 研究期間終了後、直ちに [海・岩] の展示公開（研究メンバーによるシンポジウムも企画中）と、最終目標である史料集の刊行準備作業に取りかかる。

3. 研究の方法

本研究は、以下に示す三つの方法によって、展開・推進した。

(1) [海・岩] 所収の全史料の本目録作成作業

先述した、三澤作成の仮目録をベースに、内容面を充実させ、かつ法量を含めた本目録を作成する。

(2) [海・岩] 所収の全史料の解読及びデータ入力作業

本研究は、一貫してこの作業を重点的に推進していった。本文書群の史料学的研究を本格的に展開するためには、[海・岩] 所収史料の年代比定が終了していなければならず、史料解読作業を厳密に行うことは、その前提条件であるからである。

(3) 既出の「岩倉具視関係文書」との比較検討

岩倉具視存命時に、岩倉の手許で集積され

ていた文書群から、既出の「岩倉具視関係文書」と、「第四の岩倉具視関係文書」（本文書群）とが分割されていったのであるが、これを時系列に整理し、それぞれの内容的特徴を明らかにすることは、本文書群の学術的価値を明確にするために不可欠の作業となる。

4. 研究成果

本科学研究費補助金交付期間において、新出「岩倉具視関係文書」に含まれる約 1,700 点の史料の目録を作成し、その上で解説とデータ入力を完成させた。その結果、本文書群の内容構成が、以下のようになっていることが判明した。

- 「功臣遺墨」1～156 巻，文書 889 点
- 「大坂行幸」1～4 巻，文書 25 点
- 「鳳池餘滴」1～105 巻，文書 706 点
- 「鳳池餘滴 長」巻 1，文書 9 点
- 「切支丹宗門届」，文書 5 点
- 「宇都宮戦状」，文書 1 点
- 「三條公訓論案」，文書 1 点
- 「東山道揭示書 他」，文書 8 点
- 「国是一定御諮詢案」，文書 6 点
- 「金銀銅銭価格金札相場廃止布告」，文書 4 点
- 「明治維新事蹟画」，絵画 7 点
- 「（未表装文書）」，文書 31 点
- 旧所蔵者・櫛原新輔関係史料，多数（目録・解説の対象外）

これによれば、本文書群は、他とは異質な櫛原新輔関係史料を除けば、12 項目から構成されており、文書総数 1,692 点を数えること、中核を成すのは「功臣遺墨」（53%）と「鳳池餘滴」（42%）との 2 項目であることが分かる。両者のネーミングは、旧所蔵者・櫛原新輔によってなされたと推測されるが、どちらにも岩倉が書いた書翰（草案も含む）、岩倉宛に届いた書翰、岩倉宛の意見書・密偵探

索書等の書類から成り立っている。

岩倉宛に届いた書翰（来翰）では、三条実美書翰 394 通、大久保利通書翰 182 通、伊藤博文書翰 66 通、木戸孝允書翰 58 通の存在が特に注目される。このうち大久保利通書翰は、戦前の段階で大久保家によって悉皆調査され、『大久保利通文書』（1927～29 年刊行）に収録されているが、三条・伊藤・木戸書翰の大部分は、学会未紹介の新史料である。また岩倉宛の意見書・密偵探索書等の書類は、そのほとんどが未紹介の史料であることが確実である。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 6 件）

- ① 佐々木克、明治六年政変と大久保利通、奈良史学、査読有、28 号、2011 年、pp. 1 - 37
- ② 吉村豊雄、19 世紀の新地開発と水利土木事業、文学部論叢（熊本大学）、査読有、102 号、2011 年、pp. 165 - 191
- ③ 吉村豊雄、幕末期熊本藩領における広域的経済開発事業の展開、熊本史学、査読有、93・94 合併号、2011 年、pp. 85 - 110
- ④ 佐々木克、東京遷都と明治創業の精神、神園、査読無、4 号、2010 年、pp. 1 - 14
- ⑤ 吉村豊雄、近代への行政的基点としての宝暦・安永期、文学部論叢（熊本大学）、査読有、101 号、2010 年、pp. 157 - 178
- ⑥ 小松裕、田中正造と咸錫憲、文学部論叢（熊本大学）、査読有、101 号、2010 年、pp. 21 - 34

〔学会発表〕（計 2 件）

- ① 谷川穰、大正・昭和初期の仏教と教育―木津無庵の師範学校巡回から―、日本仏教総合研究学会第9回大会、2010年12月12日、駒澤大学
- ② 三澤純、維新変革期における民政と民衆、明治維新史学会第40回（創立30周年記念）大会、2010年6月3日、駒澤大学

〔図書〕（計3件）

- ① 藤井譲治、伊藤之雄（共編著）、日本の歴史 近世・近現代編、2010年、ミネルヴァ書房、413
- ② 吉村豊雄・三澤純・稲葉継陽編著、熊本藩の地域社会と行政、2009年、思文閣、412
- ③ 小松裕、「いのち」と帝国日本、2009年、小学館、366

6. 研究組織

(1) 研究代表者

三澤 純 (MISAWA JUN)
熊本大学・文学部・准教授
研究者番号：80304385

(2) 研究分担者

藤井 譲治 (FUJII JOJI)
京都大学・文学研究科・教授
研究者番号：40093306

谷川 穰 (TANIGAWA YUTAKA)
京都大学・文学研究科・准教授
研究者番号：10362401

佐々木 克 (SASAKI SUGURU)
奈良大学・文学部・教授
研究者番号：30115852

(3) 連携研究者

吉村 豊雄 (YOSHIMURA TOYOO)
熊本大学・文学部・教授
研究者番号：90182823

小松 裕 (KOMATSU HIROSHI)
熊本大学・文学部・教授
研究者番号：30178363